

シェーン (1953)

SHANE

メディア 映画
ジャンル 西部劇
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 118分
初公開日 1953/10/01
公開情報 P A R
映倫 G
1973/02 [C I C]
リバイバル 1975/09 [富士]
2016/04/09 [東北新社] (デジタルリマスター版)

【キャッチコピー】

映画史上、かつてない感動を呼んだ不滅の名作！

曙光の中静かに去っていく男の背に 『シェーン！カムバック』あの少年の声が切なく、いつまでもこだまする (リバイバル時)

【解説】

おそらく、西部劇史上、十指に数える事に異論はないであろう傑作。舞台は緑麗しいワイオミングの高原地帯。縁あって開拓移民のスターレット一家に厄介となる、旅人シェーン。折しも、この地では開拓移民と牧畜業者の間で土地をめぐる諍いが起こっていた。やがて、スターレット一家にもその騒動が飛び火してきた時、世話を受けていたシェーンは、彼らの間に割って入っていく……。西部の股旅物としてはまことにオーソドックスな展開なるも、全てのスタッフ・キャストによる奇跡のコラボレーションがこの名作を造りあげた。風景描写・人物描写共に丹念かつリアルな演出を施した監督のG・スティーヴンス。J・シェーファアの原作を基に、あくまでも子供の視点から物語を構築させ、英雄譚と人情劇を融合させた脚本。ワイオミングの美しい山間風景の中にキャラクターを確実に捉えた撮影。そして、主題曲『遙かなる山の呼び声』の余韻も忘れ難い、調べの数々。シェーンに扮するA・ラッドは一世代と言っていい快演を見せ、その早撃ちシーンと相俟って観客に永遠に記憶されるであろう主人公となり、一家の父＝V・ヘフリンと母＝J・アーサー、この映画の語り手でもある少年ジョイ＝B・D・ワイルドも正に適役。そして、実は少ない登場シーンながらも強烈なインパクトを残して消えていくJ・パランスの黒づくめのガンマン。語るべき要素は枚挙に暇がない。優れた西部劇は少なくないが、ここまで多くの人に愛された作品はそうあるものではない。大衆性と娯楽性の両方を持ち合わせているからこそポピュラーとなるのだ。それは10年以上経ってから、同名のTVシリーズ（主演はデヴィッド・キャラダイン）になった事でも明らかであろう。

【クレジット】

| | | |
|------|--------------|------------------|
| 監督 | ジョージ・スティーヴンス | George Stevens |
| 製作 | ジョージ・スティーヴンス | George Stevens |
| 原作 | ジャック・シェーファア | Jack Schaefer |
| 脚本 | A・B・ガスリー・Jr | A.B. Guthrie Jr. |
| 撮影 | ロイヤル・グリッグス | Loyal Griggs |
| 特殊効果 | ゴードン・ジェニングス | Gordon Jennings |
| 編集 | ウィリアム・ホーンベック | William Hornbeck |
| 音楽 | ヴィクター・ヤング | Victor Young |

| | | | |
|----|-----------------|---------------------|----------------------|
| 出演 | アラン・ラッド | Alan Ladd | シェーン |
| | ヴァン・ヘフリン | Van Heflin | ジョー・スターレット |
| | ジーン・アーサー | Jean Arthur | マリアン・スターレット |
| | ブランドン・デ・ワイルド | Brandon de Wilde | ジョーイ・スターレット |
| | ウォルター・ジャック・パランス | Walter Jack Palance | ジャック・ウィルソン |
| | エミール・メイヤー | Emile Meyer | ルーフ・ライカー |
| | ベン・ジョンソン | Ben Johnson | クリス・キャロウェイ |
| | エリシャ・クック・J r | Elisha Cook Jr. | フランク・”ストーンウォール”・トリー |
| | エドガー・ブキャナン | Edgar Buchanan | フレッド・ルイス |
| | ダグラス・スペンサー | Douglas Spencer | アクセル・”スウェード”・シップステッド |
| | ジョン・ディークス | John Dierkes | モーガン・ライカー |
| | ポール・マクヴィ | Paul McVey | サム・グラフトン |
| | エレン・コービー | Ellen Corby | リズ・トリー |